令和４年度事業報告書

Ⅰ　事業の成果

今期も新型コロナウィルスの流行が収まらない中、スタジオ内の消毒の徹底などの感染防止対策を行い、放送を継続させてまいりました。春先から地域のイベント、行事も少しずつ復活し、イベントの告知やゲストのスタジオ出演の機会も増えるなど、活気が戻りつつあります。

1. 放送事業の充実について

(1) 放送事業

①大学との連携事業

・北区の４大学（大谷大学、京都産業大学、立命館大学、佛教大学）ともコロナ禍前とほぼ同様の放送回数、放送内容に戻りました。また３月のみですが花園大学も加わりました。

京都産業大学　「京産現社カフェ」（脇浜ゼミ）

大谷大学「ハッピーアワー」

第３種郵便物認可　京都新聞

地域の課題や魅力探ろう

SDGs視点でラジオ放送

立命館大生、環境問題や景観調査

北区のコミュニティFMで発信

立命館大で音声メディアを研究する学生たちが、SDGs（持続可能な開発目標）の視点で地域の課題や魅力を探るラジオ番組の放送に取り組んでいる。学生自ら企画や調査を担い、SDGsを身近に感じてもらうための知恵を絞って、生放送で発信している。

ラジオを中心とした音声メディアを研究する坂田謙司教授のゼミが2019年に始めた。毎年10月から約半年間、北区のコミュニティFM局「RADIO MIX（ラジオミックス）京都」で放送している。

今年はゼミ生16人が4チームに分かれ、10月5日から放送を始めた。「つくる責任つかう責任」がテーマのチームは、学内でのアンケートから環境問題についての理解を調査した結果を報告。他のチームは鴨川源流の寺院、エネルギー問題に関する本、ラジオ局周辺の都市景観について調べた成果を伝えた。

生放送だけにミスは許されないという緊張感があるが、学生たちは事前にリハーサルを重ね、自然な会話を楽しむように番組を進めている。「つくる責任―」のチームに参加する3年橋本奈緒さん（21）は「世界規模の話は生活から遠く感じてしまうけど、学生目線で硬いイメージを払拭したい」と意気込んでいる。

坂田教授は「SNSとは違い、この時間にはどんな人が聞いているかと考えながら発信しないといけない。自分たちで発する言葉に責任が伴うことも学んでほしい」としている。

番組は水曜午後7時からの「あくあわ！」。同ラジオ局のホームページで過去の放送を聞くことができる。（沢田亮英）

初の生放送終了後、感想を話し合う立命館大の学生たち（京都市北区・ラジオミックス京都）

京都新聞 令和4年11月16日 朝刊

②行政・公共団体との連携事業

・北区:12 月人権月間特別番組「誰かのことじゃない、どれも自分ごと」として、「性的マイノリティ(LGBTQ)と人権」「障害のある人と人権」など４つのテーマで全４回、学生パーソナリティと実践者の方々とのお話を放送しました。

・上京区 :「上京交通安全フェスティバル 2022」「自転車安全利用の取り組み（府立鴨沂高校）などのイベントレポートを放送しました。

・今年度新たに京都府交通安全協会にご賛同いただき、FM まいづるとのネットワーク放送を実施しました。

・この他、警察署、消防署、日本赤十字社、共同募金会、上京納税協会等と連携し、多くの公益的な情報を発信していくことができました。

北区 : 12 月人権月間特別番

上京交通安全フェスティバル 2022

③番組協賛の拡充

・makicomi x kyoto では、地域の商店街や京都銭湯倶楽部など FM87.0 チームメイトに迎え、地域に密着した話題をお届けしました。またチームメイトの皆さんには番組に参加いただくだけではなく、サポーター会員になっていただき、会員の拡大を図りました。

・SPLASH MIX KYOTO では、これまでのご協力団体に加え、京都むらさきの総合税理士法人、GK Kyoto、株式会社 Tetsu など様々な事業者の方々に出演いただき、多彩な話題を提供いただきました。番組を一緒につくることで、協賛団体の方々との交流が増え、よりよい関係性を築くことができました。

京都銭湯倶楽部　「京もわいてまっせ」

GK Kyoto　「デザイン井戸端トーク」

④開局記念特別番組の実施

・５月２２日に開局６周年の開局記念特別番組「地域とつながるラジオＳＰ」と題して公開生放送を実施。

リニューアル１周年を迎えた大宮交通公園の杜の家 縁側より、１３名のゲストに出演いただき、久しぶりにリアルでのイベント開催が叶い、普段なかなか会えなかった地域の方々ともお会いすることができました。リスナーの方々からのお祝い、応援メッセージ、プレゼントの応募も多くいただきました。周年記念のプレゼント企画では、今年も田中工芸刺繍よりプレゼントの提供をいただきました。この他、紙芝居やラジオ体験ブースを開設し、多くの子どもや家族連れにご参加いただきました。体験ブースで収録した、地域の皆様の声を毎日 FM87.0 RADIO MIX KYOTO のサウンドロゴとして、イベント後より現在放送しています。

公開生放送 開局記念特別番組

JPIC 読書アドバイザー諸岡弘さんによる紙芝居

⑤地域の子どもたちのラジオ参加、認知度向上への取り組み

・ラジオを知る機会、そして地元にラジオ局があることを知っていただくため、地元のこどもたちに番組に参加いただく場づくりをしました。特別番組「Radio Letter -卒業-」（３月）では、コロナ禍の影響を大きく受けながらの学校生活を経て、卒業を迎えた北区・上京区の５つの中学校の皆さんから、普段伝えきれない家族や先生、友人たちへの想いを声のお手紙にしてラジオから届けてもらいました。

・夏休み特別企画として小学生を対象に「ラジオ DJ 体験プログラム」（７、８月）を実施。京都市北区・上京区の小学生１０名が参加しました。スタジオの見学やパーソナリティからの放送局や DJ の仕事についてのお話、DJ レッスン等を実施。またそのプログラムのまとめとして日頃お世話になっているおじいちゃんおばあちゃんへ、「ありがとう」の気持ちを声のお手紙にして収録し、後日、特別番組「Radio Letter -おじいちゃん おばあちゃんへ-」として放送しました。

特別番組「Radio Letter -おじいちゃん おばあちゃんへ-」

⑥ラジオ局、及び番組の認知度の向上

・ ウェブサイトや Facebook、Twitter 等の SNS、ポッドキャスト配信、番組のアーカイブ聴取などによる利用拡大を進めています。また、一部の番組を Apple Podcast、Spotify から聴取できるようにしました。

＊参考数値：ツイッター：投稿を見た人 893,004(前年は 600,584)
＊参考数値：リスラジ：ユニーク聴取者数 年間のべ 13,144(月平均 1,095)

・番組表の内容充実を図り、ラジオ局の番組や取り組みについて時宜にかなった情報を発信することができました。また配布場所の見直しも行い、地域での回覧にご協力をお願いするなど、幅広い周知に努めました。
・FM まいづる､京都三条ラジオカフェとの 3 局連携による番組の相互乗り入れと共同制作を継続しました。
・地域のイベントなどにお訪ねし、ラジオ局の認知度向上に努めました。

北区民つながるまちフェスタ

秋の上京区民まつり 2022

(2) 放送環境
・放送設備の老朽化に伴い、DAD（自動番組放送装置)、スタジオのミキサーなどを更新しました。
・木村放送局長が無線従事者としての活動に必要な第二級陸上特殊無線技士を取得。円滑な放送を行うべく放送環境の充実を図りました。

２. ご支援の拡充について

(1)サポーターの獲得
・令和３年度(12 月)に賛助会員の制度を一部改定しました。令和４年度からは総会での議決に参加される方は「正会員」を継続し、応援者の立場でサポートいただける方は、税制優遇制度のある「サポーター会員（賛助会員)」へ入会をいただきました。その結果、会員数は令和３年度の 111 名（正会員 70 名、賛助会員 41 名）から、令和４年度は 144 名（正会員 32 名、賛助会員 112 名）となり、33 名の会員増となりました。
・番組単位で応援いただく「番組パートナー」、番組表の発行に協力いただく「番組表サポーター」の他、カーディーラーによるラジオチューナーのプリセットなど、地域の様々な方々に財政面、広報面でラジオ局へのご支援をいただくことができました。

(2)支援者のコミュニティづくり
・開局６周年の開局記念特別番組の放送後に、応援いただいている会員や協賛団体の皆様らと放送局関係者とが一堂に会する交流会を３年ぶりにリアル開催しました。ラジオ局にまつわるクイズ大会や、空飛ぶ仏像「ドローン仏」披露など大いに盛り上がりました。(参加者 86 名／サポーター会員,協賛等 60 名、理事 10 名、スタッフ・パーソナリティ 16 名)
・3 ヶ月に 1 度会員向けに、普段なかなか SNS などでも伝えきれない活動の内容を「ニュースレター」として配信しました。

RADIO MIX KYOTO 交流会 令和４年５月２２日（於 大宮交通公園 杜の家）

３．法人組織の安定化について

・放送局長の下、パート・アルバイトやパーソナリティが、主体的に番組の運営管理を進めることができました。また総務・経理業務、放送運行業務を一部、委託するなどスタッフの業務の分担を図りました。しかし、放送運行業務の一部を委託していた団体が海外へ行くことになり、秋から放送局スタッフがその業務を再度担うことになりました。令和５年度は運営体制の改善を図ります。

・ 番組審議会は８名の審議委員から毎月熱心なご意見を頂戴し、番組作りの改善に反映することができました。

・京都市より特例認定特定非営利活動法人（特例認定 NPO 法人）として認定の２年目となりました。税制上の優遇措置を活かして、サポーターの拡大を図ることができました。

Ⅱ　事業の実施に関する事項

1　特定非営利活動に係る事業

事 業 名 （定款に記載した事業）	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位：千円）
放送・通信事業	コミュニティ FM 放送局の運営及び放送事業の広報啓発活動	(A)令和 4 年 1～12 月 (B)京都市北区 (C)6 人	(D)京都市北部の住民 (E)約 70 万人	17,073

以　上